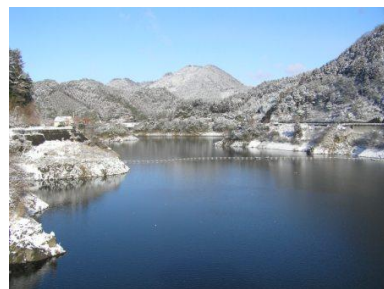


島地川ダム水源地域ビジョン【改定版】



令和8年3月

島地川ダム周辺地域にぎわい検討会

【 目 次 】

第1章 はじめに.....	1
第2章 島地川ダム水源地域の特性.....	2
2.1. 島地川ダムの概要.....	2
2.2. 周辺地域の概要.....	3
第3章 ビジョンの方向性と基本方針.....	4
第4章 ビジョンの行動計画.....	5
4.1. 行動計画.....	5
4.2. 継続する取組内容.....	6
4.3. 新たな取組内容.....	7
第5章 ビジョンの推進体制.....	17

参考：「島地川ダム水源地域ビジョン【改定版】」の策定経過

参考：「島地川ダム水源地域ビジョン【改訂版】」の策定経過

参考：「島地川ダム水源地域ビジョン」（当初計画）の策定経過



（表紙写真）

①島地川ダムと高瀬湖、②紅葉の高瀬湖、③冬の高瀬湖

④高瀬の旬をクィーン祭り、⑤高瀬峡、⑥桜の高瀬湖

第1章 はじめに

島地川ダムは、山口県周南市徳地地先の一級水系佐波川水系島地川の上流に、昭和 57 年 3 月に建設された重力式コンクリートダムです。

その島地川ダムを水源地域における資源の一つとして位置づけ、水源地域の住民、自治体と連携し、ダムを活用した自立的で持続的な地域活性化を図るための行動計画として、平成 18 年 3 月に「島地川ダム水源地域ビジョン」が策定されました。（策定経緯は P11 参照）

その後、「島地川ダム水源地域ビジョン」に基づき、地域資源マップ「楽しもう わだ！！」の作成や、「高瀬湖だより」の定期的な発行などにより島地川ダム周辺地域の情報発信の取組みが進められてきました。

しかしながら、策定から 10 年以上が経過し、地域を取り巻く状況変化などにより水源地域ビジョンに掲げた取組の推進が困難な状況がみられていました。

一方で、水源地域である和田地区では、地域主体のまちづくり計画である「地域の夢プラン」が策定され、地域活動が引き続き活発に行われています。

そこで、地域やダムを取り巻く状況を再確認し、活発な地域活動の中にダムが溶け込んでいくという考えのもと、地域もダム管理者も無理のない形で、持続可能な水源地域ビジョンへと見直しを行うこととしました。

見直しにあたっては、水源地域である和田地区とダム管理者で構成する「島地川ダム周辺地域にぎわい検討会」により、平成 29 年度から足掛け 4 年にわたって議論を行い、具体的なアイデアについては試行を行いながら検討してきました。

本ビジョンは、平成 18 年 3 月に策定した「島地川ダム水源地域ビジョン」における基本方針を踏襲し、地域の実情を踏まえた新たな行動計画や推進体制など、ビジョンの取組方策や推進方策について見直しを図り、より実効性が高く持続可能なビジョンとなるよう取りまとめたものです。

※水源地域ビジョン：

水源地域ビジョンとは、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的としています。また、策定にあたっては、ダム水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と協同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する行動計画です。

第2章 島地川ダム水源地域の特性

2.1. 島地川ダムの概要

島地川ダムは、佐波川水系島地川の上流にある多目的重力式コンクリートダムです。

島地川ダムは、昭和47年5月から調査を開始し、昭和51年度からダム本体工事が始まり、昭和56年3月完成しました。

このダムは、建設期間の短縮と費用の低減、工事の安全性を図ることができるRCD工法という、世界で初めての新技术を採用して建設されました。

ダム湖は付近の大字名が高瀬で、ダム下流の渓谷が高瀬峡と呼ばれていたことから「高瀬湖」と命名されました。



島地川ダムは、「洪水調節」、「利水」、「河川環境の保全」の3つの目的で建設された多目的ダムです。

- ①洪水調節：島地川ダムでは、台風や大雨によりたくさんの水が下流に流れそうな時、それをダムで受け止め安全な量だけを川に流します。これを洪水調節と言います。島地川ダムの特徴として、洪水をダム本体にある穴により自然に調節する方式(自然調節方式)を採用しています。
- ②利水：防府市や周南市など下流地域が必要とする都市用水（水道・工業用）を確保し、供給しています。
- ③河川環境の保全：貯水池にためた水を調節しながら下流に流すこと(流量調節)島地川流域の動植物の生息、良好な水環境を維持しています。

2.2. 周辺地域の概要

島地川ダムが立地する和田地区は、平成 15 年 4 月に 2 市 2 町の合併に伴い市域となった周南市北部に位置し、中国山脈の支脈が起伏する山間地域です。

面積 41.08K m²の南北に長い地形であり、中央を佐波川の支流島地川が流れ、それに平行して国道 376 号が走っています。集落には、国指定文化財の三作神楽や著名人の生家など歴史と文化が融合し、いくつもの見所が点在しています。

また、米をはじめ、お茶、しいたけ、その他野菜などを生産する農業や和田林業と呼ばれる林業の盛んな農山村地帯です。特産品には、高瀬茶、高瀬味噌、こんにゃくや和田丸太などがあり、農林産物を地元で加工して販売しています。

島地川ダム周辺はキャンプ場や公園が整備され、訪れる人々に四季折々の自然とところ和む歴史を感じさせてくれます。

高齢化と過疎化の進む和田地区にあって、地域に住む人たちの心をつなぎ、都市と農村との地域間交流を図り、地元の活性化につなげるために、「和田の里づくり推進協議会」が発足しました。

現在、和田の里づくり推進協議会を中心に、各種イベントの企画運営や様々な地域づくり活動を推進しています。



第3章 ビジョンの方向性と基本方針

平成17年度に実施したアンケート調査結果、ふるさと再発見ツアー及びワーキング会議での意見をもとに、ビジョンの方向性と基本方針を以下のように設定しました。

情報基盤をつくる

- ・ふるさとの魅力をより多くの人に紹介するため、情報を整理・保存する。
- ・ふるさと情報マップをつくる。
- ・行政機関と連携して情報発信・企画の仕組みをつくる。

少子高齢化地区の体力・知力を集中させ、魅力あるテーマを実現化させる

- ・多くのことを一気に取り組むことは難しいため、当面取り組むべき活性化のテーマを絞り込み、効果を確実に得ていくことを目指す。
- ・和田地区内の各地域で顕在化させるべき資源を選定し、駐車場の確保、案内板の設置などを行う。
- ・島地川ダム「高瀬湖」の利用者や子供や家族連れが水辺で憩うことができる拠点を整備する。

「力」を利用し、集客力を高める

- ・既存イベントを活用するとともに、著名人などの「知名度」を借りてPRしていくことを検討する。また、防府市等との広域連携を視野に入れる。
- ・島地川ダムへの利用者に和田地区内を楽しんでもらえるようなルート案内や情報の発信をする。

第4章 ビジョンの行動計画

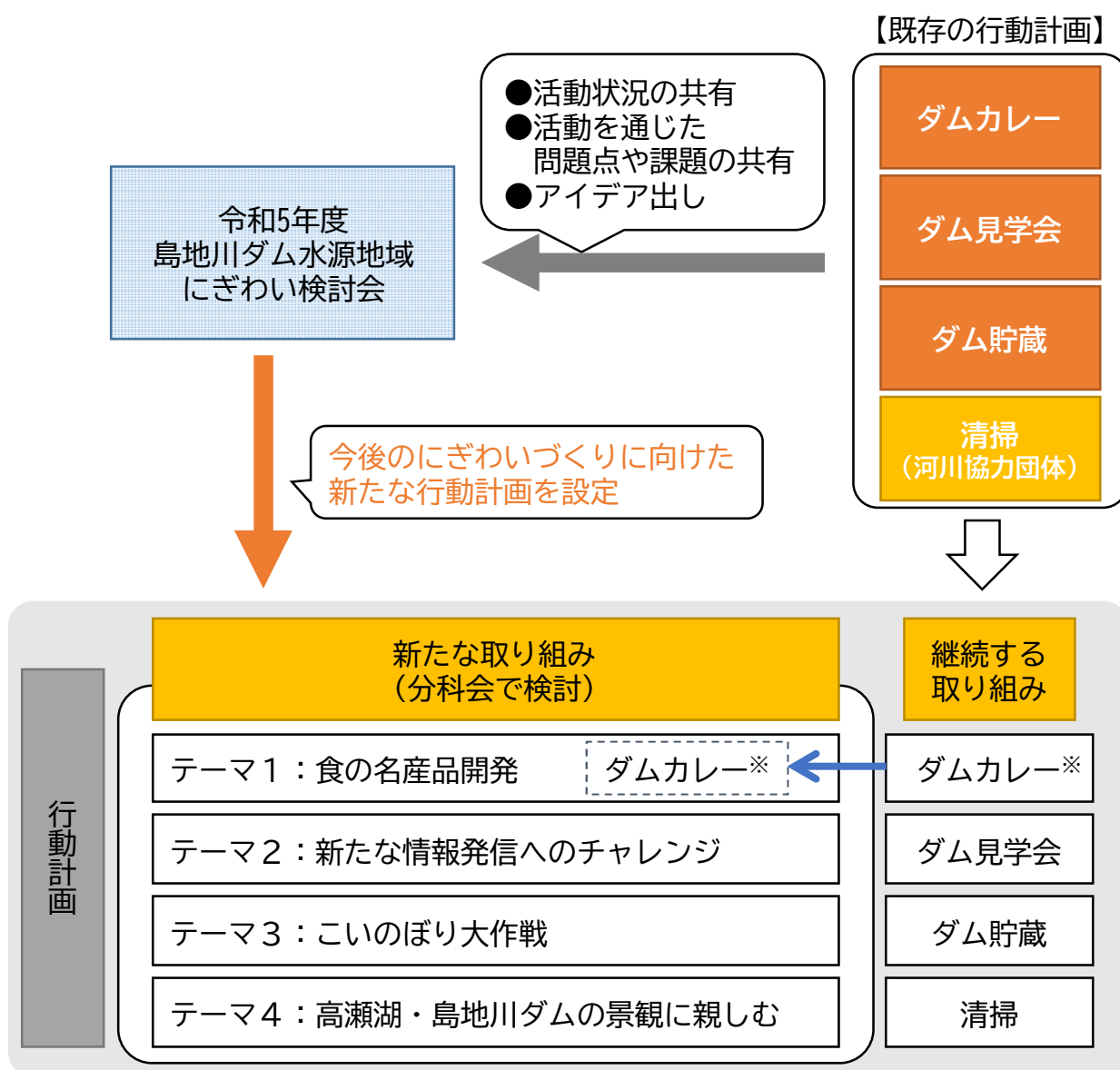
4.1. 行動計画

令和5年度に開催された「島地川ダム水源地域にぎわい検討会」において、既存の行動計画に基づく活動（ダムカレー、ダム見学会、ダム貯蔵、清掃）の中で、高齢化や地区の人口減少による地域の担い手不足などの問題点や課題が挙げられました。

一方で、今後の新たな取り組みを検討するためのアイデア出しでは、和田地区、高瀬地区が有する歴史や文化、行事など、地域の宝となる資源が再確認されました。

そこで、今後の新たな取り組みとして「食の名産品開発」「新たな情報発信へのチャレンジ」「こいのぼり大作戦」「高瀬湖・島地川ダムの景観に親しむ」という4つのテーマに基づいて、にぎわいづくりを推進していきます。

また、地域だけではなく、ダム管理者や周南市、山口県とも情報共有を図りながら、地域の状況変化に応じて行動計画の見直しや拡充を図ることとします。



※道の駅ソレーネ周南での販売は令和5年に終了。今後は、食の名産品として取り組む

4. 2. 継続する取組内容

(1) ダムカレー

島地川ダムカレーは、検討会で出されたアイデアをもとに、地域のイベントにおいて地域団体が自主的に提供を始めました。

その後、受益地に立地する「道の駅ソレーネ周南」に働きかけ、地域と共同で開発した島地川ダムカレーを定常的に販売開始しました。

現在、道の駅ソレーネ周南での販売は令和5年に終了していますが、今後も改良を加えながら地域イベント等で継続して提供していく予定としています。

(2) ダム見学会

ダム見学会は、毎年11月に地域で開催され、広域から多くの集客がある「ルーラル315・376フェスタ」において、イベントの一つとして試行し、2か年の試行の中で、運営方法の改善を図りながら参加者数の拡大を図ってきました。

今後も、運営の負担軽減を図りながら、和田地区のイベントにおいて、ダム管理者と協力して実施していくことを目指します。

(3) ダム貯蔵

ダム貯蔵は、温度や湿度の変化が少なく環境が安定したダム内部の特性を生かし、毎年、様々な地場産品の貯蔵を試行してきました。

今後は、河川協力団体としての認定を受けた和田の里づくり推進協議会（指定日：令和4年3月11日、指定番号：国（中国地方整備局）第34号）が主体となって、引き続き、地域の冷蔵庫として、貯蔵に適した品目を試行しながらブランド化を目指します。

(4) 清掃

島地川ダムに来られた方が、いつでも清々しい気持ちで散策していただけるようにするとともに高瀬湖周辺の環境を守るために、貯水池周辺のウォーキングを兼ねて清掃活動を行うことで心と体のリフレッシュを目的として毎年2回、桜の時期と紅葉の時期に実施してきました。

今後も、継続して実施をしていきます。

4.3. 新たな取組内容

(1) 食の名産品開発

島地川ダムの建設時、現地には作業員が宿泊を共にする飯場（はんば）があり、作業の力となる「めし」が提供されていました。

また、和田地区には、三作神楽の奉納食である「ささぎめし」、平餅や高瀬茶、焼き芋やこんにゃくなど、地域が誇る食の資源があります。以前は「世界一長い餅づくり」にチャレンジしたこともあります。

これまでは、ダムに関連したメニューとしてダムカレーがありました。今後は、新たな誘客資源、収益源となる「飯場めし（はんばめし）」を開発し、地域イベント時や市内飲食店、道の駅などでの販売を目指します。

また、名産品の材料の生産においては、休耕田や耕作放棄地の活用も検討するなど、農地の保全活用と材料の安定供給、収益化など、好循環の創出を目指します。

実施内容		・イモとモチを軸にした食の名産品開発と販売・流通 ・「飯場めし」のシリーズ化、ブランド化 ・地域一体となった取り組みの実現
具体的な取り組み		・材料の生産の維持と拡大 （担い手や協力者の確保、休耕田活用、地区間の連携強化など） ・新メニューの開発 （既設商品への付加価値向上、規格外品の活用など） ・地域外での販売に向けたブランド化
期待する効果		・地域内消費の拡大や生産者の収入向上 ・生産過程における耕作地の活用促進 ・「飯場飯」のシリーズ化による島地川ダムの広報・PR
役割分担	地域	・地域の飯場の食文化の研究・継承 ・食材の生産と保存（貯蔵） ・名産品の開発 ・地域イベントでの販売
	行政	・食材保存のためのダム貯蔵の継続 ・広報や販売・流通の支援
取り組み状況		・分科会（特産品の開発分科会）を令和6（2024）年度に4回、令和7（2025）年度に4回開催し、飯場めしのレシピに関する情報収集やメニューの検討・開発について議論を実施 ・令和6（2024）～令和7（2025）年度にかけて『飯場めし』として「わだめし」（炊き込みご飯）、「こんにゃくカツ」（揚げ物・開発中）、『飯場スイーツ』として「マドレーヌ」、島地川ダムブランドとして『もち』（玄米もち、高瀬茶もち）を試作し、あけぼの食堂（地域食堂）等の地域イベントで販売 ・販促物として包み紙やポスターを作成
今後の課題		・食材の継続的な生産に向けた休耕田活用の検討（担い手、資金の確保など） ・継続的なメニューの開発（試作やイベントでの販売含む） ・開発したメニューのネーミング ・開発したメニューの販売に向けた体制づくりと販路（販売場所）の確保

1) 飯場めし

ご飯ものとして『わだめし』、揚げ物として『(仮称) 高瀬こんにゃくカツ』(開発中) を開発し、わだめしは、にぎわい検討会で試食も実施しました。

飯場めし	名称及び飯場めしとしての特徴
	■名称：ダムカレー ■特徴： ・飯場飯の第1号として『島地川ダムカレー』が開発されました。 ・島地川ダムカレーは、<u>上下流ともルーを配置した、まさに飯場で</u> <u>のチカラ飯</u>となるダムカレーに仕上げました。 ・道の駅ソレーネ周南での販売は終了しており、現在は、和田地区で開催されるイベント時に販売しています。
	■名称：わだめし ■特徴： ・炊き込みご飯は、ごはんに具のおいしさに移すもの、後から混ぜて具の持ち味を生かすものなどがあり、中に入れる具によって、四季の味が楽しめます。 ・具材の一つに高瀬特産の高瀬茶を混ぜ込むことで、<u>程よくまろやかな渋みと高い香りも楽しめる</u>和田地域オリジナルのとして開発しました。
	■名称：(仮称) 高瀬こんにゃくカツ (開発中) ■特徴： ・こんにゃくカツは、こんにゃくとトンカツを融合させたものです。揚げ物だけどこんにゃくなので低カロリーで罪悪感なしに食べられます。 ・こんにゃくに高瀬特産の田舎こんにゃくを使用することで、<u>独特な舌触りが特徴</u>の和田地域オリジナルのこんにゃくカツとして開発しました。

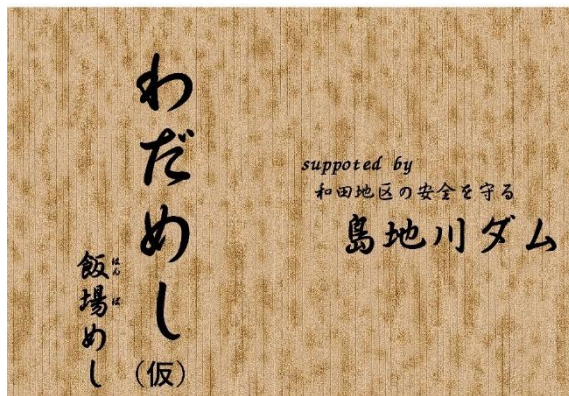
2) 飯場スイーツ

『高瀬茶入りマドレーヌ』を開発し、にぎわい検討会での試食も実施しました。

飯場スイーツ	名称及び飯場スイーツとしての特徴
	■名称：高瀬茶入りマドレーヌ ■特徴： ・貝殻型のマドレーヌは、日本では1960(昭和35)年に東京都の洋菓子店のCADOT(カド)が販売したことで人気を博し、1970年代には皿形のマドレーヌが家庭でも作られるようになり、庶民のおやつとして好評でした。 ・マドレーヌに高瀬特産の高瀬茶の粉末を入れることで、和田地域オリジナルのマドレーヌとして開発しました。

3) 販促物の作成

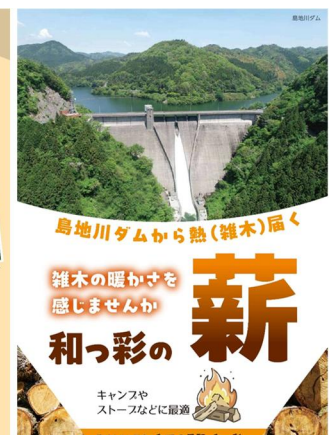
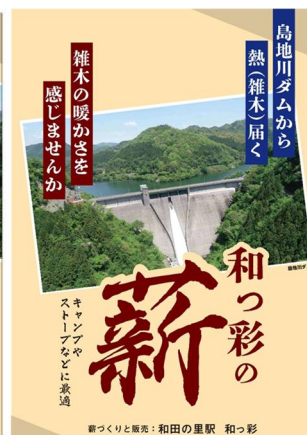
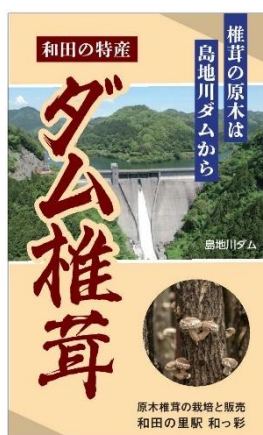
開発した飯場飯の販売促進に向けて、包み紙とポスターを作成しました。



4) 島地川ダムブランドの開発

島地川ダムブランドとして「もち」の商品開発の他、「もち」、「椎茸」及び「薪」の商品ロゴを作成しました。

もち	名称及び特徴
	■名称：玄米もち、高瀬茶もち ■特徴： ・和田地域の高瀬で川渡り餅という話が残っています。また、平成26年には、和田地区で「餅-1 グランプリ」が開催され世界記録を達成しました。 ・和田地域で収穫された餅米を用い高瀬特産の高瀬茶と一緒に<u>つくことで香り高い和田地域リゾールのモチとして開発しました。</u>



(2) 新たな情報発信へのチャレンジ

「楽しもうわだ!!」は、和田地区や高瀬地区の魅力をギュッと集めたパンフレットであり、地域の名所や食、文化が紹介されています。小学校など、地域の歴史を学ぶ場でも使われるパンフレットですが、制作年が古く情報の更新が必要な箇所があります。今後は、「楽しもうわだ!!」を更新し、地域の新たな魅力の発信を目指します。

また、本地区や島地川ダムにおける情報発信は「しゅうなん地域づくり応援サイト」や「和田の里だより」、X（旧 Twitter）などで行われていますが、地域の魅力を発信するには、地域で SNS を活用するべきとの意見もあります。今後は、紙媒体（アナログ）の情報と SNS 等のデジタルの情報をバランスよく活用し、魅力的でわかりやすい情報発信を目指します。

実施内容		・地域の魅力発信 ・情報発信の媒体の多様化（アナログとデジタルの両立） ・歴史や伝統、伝承を活かした独自性のある新たな PR の検討
具体的な取り組み		・「楽しもうわだ!!」のリニューアル（動画コンテンツも掲載） ・地域の歴史や伝承の整理、研究 ・SNS を用いた情報発信への挑戦・試行
期待する効果		・来訪者への分かりやすい案内 ・地域の持つ文化の学習、継承機会の創出 ・地域外からの来訪機会の創出
役割分担	地域	・SNS の活用 ・現在の情報発信の継続（担い手確保）
	行政	・「楽しもうわだ!!」のリニューアル（地域も連携） ・情報発信の支援 ・市や県の情報サイトでのイベント告知
取り組み状況		・分科会（楽しもうわだ!!再編分科会）を令和 6（2024）年度に 4 回、令和 7（2025）年度に 3 回開催し、「楽しもうわだ!!」（B2 版）のリニューアル及びダイジェスト版（A3 両面）について議論を実施 ・令和 6（2024）～令和 7（2025）年度にかけて「楽しもうわだ!!」のリニューアル版である『好きです わだ!』（B2 版）及びダイジェスト版（A3 両面）の原案を作成 ・島地川ダム HP の更新（写真や記載内容の更新、ビジュアルを重視するとともにスマホ世代にアピールしやすいレイアウトに変更）
今後の課題		・SNS の試行（Instagramu や X（旧 Twitter）のアカウントを作成して、各団体で共有。とりあえず、やってみるところから始める） ・情報発信によるセキュリティリスクの勉強会 ・作成した「楽しもうわだ!!」のリニューアル版及びダイジェスト版（A3 両面）のリーフレットの配布場所及び方法の検討

1) 好きですわだ！の作成

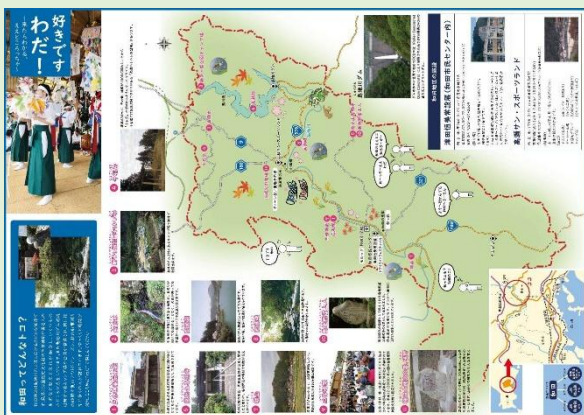
表面は、地図に等高線があったり、写真や文字が多い等、情報量が多い状況でした。それを、地図に和田の方言も入れる等、和田の特徴が伝わるように工夫しました。

裏面は、散策ルートの説明が主たる内容でした。それを、テーマ毎に主たるイベントを紹介するとともに、津田恒美や年間のイベントを紹介する等、見た人の興味・関心を持ってもらえるよう工夫しました。

また、従来の大判（B2）サイズに加え、持ち運びが便利なダイジェスト版（A3）サイズを新たに作成しました。

大判（B2版）

■表面

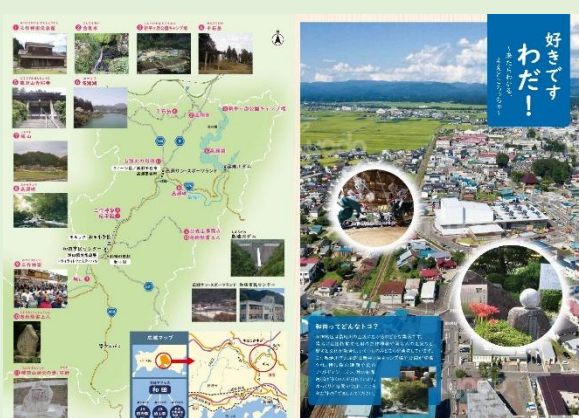


■裏面



ダイジェスト版（A3）

■表面



■裏面

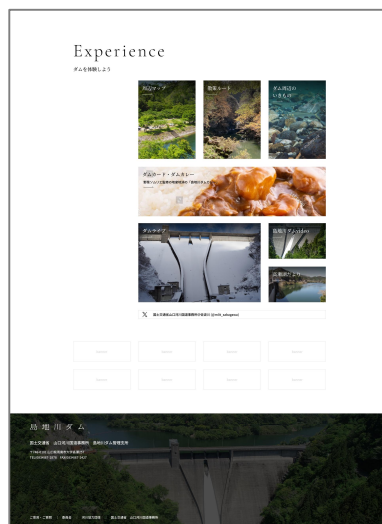


2) 島地川ダムホームページの更新

山口河川国道事務所 HP の更新にあたり、ビジュアルを重視するとともに、メイン画面は画面いっぱいのダム写真で迫力を演出したり、スマホ世代にアピールしやすいレイアウトとする等の工夫を行いました。

デザイン案

《トップページ》



《下層ページ》※一部抜粋



(3) こいのぼり大作戦

山口市徳地地域の島地川沿いや、防府市奈美地域の佐波川沿いにこいのぼりが掲揚されています。和田地区でも毎年5月のこども日やクイーン祭にあわせて、島地川にてこいのぼりを掲揚しています。

地域の風物詩として根付いているこいのぼりですが、年々こいのぼりの数が減少しています。クイーン祭などのイベントに華を添えるため、また、こいのぼり鑑賞目的の来訪者の増加を図るため、こいのぼりの収集や掲揚場所を増やす「こいのぼり大作戦」の実施を目指します。

こいのぼりの掲揚にあたっては、字馬路川ダム堤体での掲揚や春以外の掲揚など、「独自性」のある取り組みも検討していきます。

実施内容		・「こいのぼり大作戦！」の企画・展開 ・「恋（こい）のぼり」による若者世代の誘致
具体的な取り組み		・掲揚場所の増設（ルートや写真写りも考慮） ・ダム堤体での掲揚による本地区ならではの景観づくり ・四季折々のこいのぼりによる景観演出 ・こいのぼりを活かしたソフト事業の展開
期待する効果		・地域景観の向上 ・来訪者の増加による消費の拡大（他地域との相乗効果） ・島地川ダムでの掲揚によるダムへの来訪者の増加
役割分担	地域	・こいのぼりの収集、保管、掲揚、修繕 ・企画検討
	行政	・こいのぼりの収集や保管などの支援 ・掲揚施設や高瀬峡のハード整備などの検討 ・ダム堤体での掲揚検討
取り組み状況		・こいのぼりの収集や保管、修繕などに関する他都市での事例のヒアリングの実施 ＞事例①：佐波川 [防府市、佐波川こいながし実行委員会など] ＞事例②：相俣ダム [利根川ダム統管理事務所など] ＞事例③：鳴子ダム [鳴子ダム管理所、大崎市鳴子総合支所など] ・こいのぼりの掲揚場所の検討
今後の課題		・こいのぼりの収集方法の検討（広報しゅうなんの活用など） ・こいのぼりの掲揚場所の検討（ダム堤体や木谷公園、網場など） ・こいのぼり大作戦の実施（掲揚や保管、補修など）に向けた資金調達 ・こいのぼりに関連するソフト事業の企画検討

1) こいのぼりの掲揚場所の検討

こいのぼりの掲揚場所として、島地川ダム周辺では、①島地川ダム、②島地川ダム管理支所周辺、③網場、④木谷公園を検討しています。



2) こいのぼりの掲揚イメージ

上記の候補地におけるこいのぼりの掲揚イメージは以下のとおりです。

①島地川ダム	②島地川ダム 管理支所周辺	③網場	④木谷公園	周南市和田支所
				
■特徴 ・ダムの上から鑑賞 ・高瀬峡の犬なき橋の先で「秘境感」がある	■特徴 ・国道及び支所前の広場から鑑賞可能	■特徴 ・湖面を泳ぐこいのぼりが楽しめる ・水中掲揚は全国的にも珍しい	■特徴 ・こいのぼりと桜を同時に鑑賞することも可能	■特徴 ・国道からの鑑賞を想定 ・下流側の新たな掲揚場所となる
■掲揚数（想定） 約10匹※ ¹ ※1：約3m/匹	■掲揚数（想定） 約10匹※ ² ※2：約3m/匹	■掲揚数（想定） 約100匹※ ³ ※3：約5m/匹	■掲揚数（想定） 約4匹※ ⁴ ※4：約3～4m/匹	■掲揚数（想定） 約7～8匹※ ⁵ ※5：約3m/匹

(4) 高瀬湖・島地川ダムの景観に親しむ

島地川ダム上流部の新平ヶ原キャンプ場付近では遊泳ができる他、高瀬湖面ではエンジン無しのボートが使用可能です。一方で、現在は湖面にアクセスしにくい状況である他、湖面活用においては、安全対策やルール作りなど、様々な検討が必要になります。このため、今後も継続して関係機関や地域と意見交換を行います。

島地川ダムは、春のサクラ、夏の新緑、秋の紅葉など、豊かな自然景観を楽しむことができます。また、河川協力団体により、定期的に除草や清掃が行われています。

一方、サクラが高齢となり弱体化が進行していることや、モミジが大きくなりすぎているなどの課題があります。また、ダム周辺の優れた自然景観を高瀬湖の湖面から見る機会もありません。

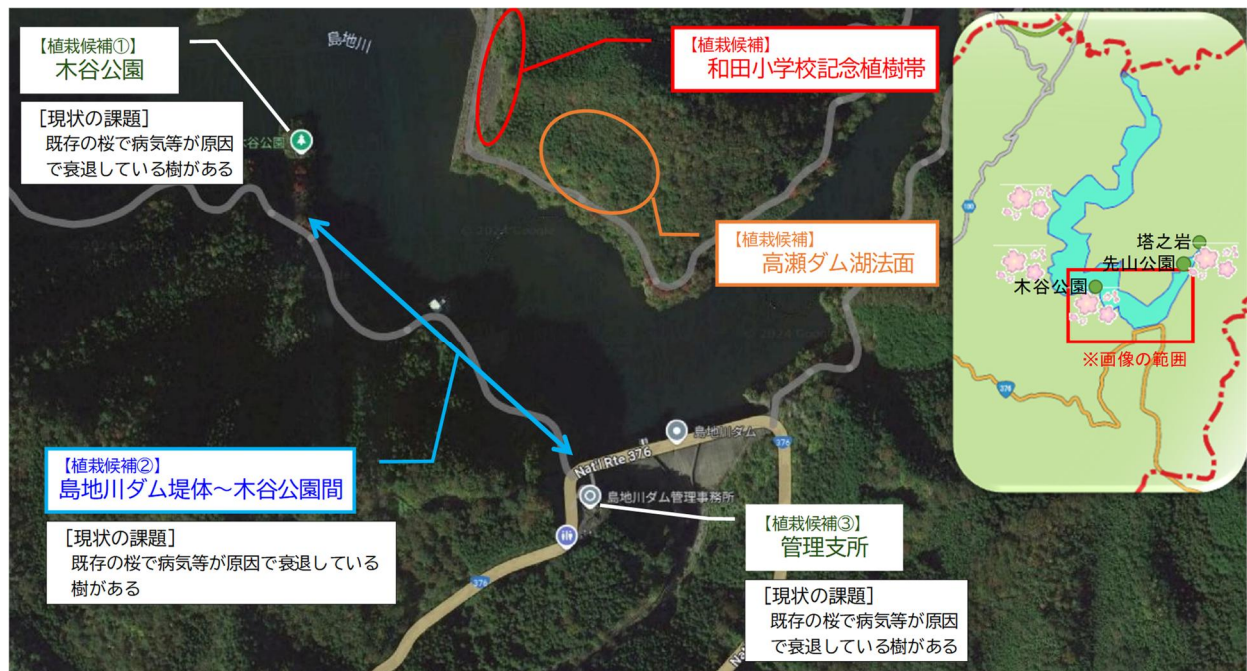
今後は、新たな魅力ある景観づくりや、誰もが多様な視点から島地川ダムの景観を楽しむことができるような企画・整備を目指します。

実施内容		・サクラやモミジなど、誘客につながる景観形成（植栽再整備） ・ダム周辺の利活用に向けた環境整備 ・ダム周辺からの景観を安全に楽しめる機会の創出 ・島地川ダムの PR の充実
具体的な取り組み		・景観形成（植栽整備）の内容検討 ・既存樹木の再整備（剪定、伐採） ・イベント時の駐車スペースの確保に向けた検討 ・湖面活用に向けた関係機関との意見交換 ・UAV など最新技術を活用した高瀬湖の景観プロモーション
期待する効果		・レクリエーションの充実 ・島地川ダム、高瀬湖の景観向上及び愛着心の形成 ・島地川ダムの PR
役割分担	地域	・島地川ダムにおけるにぎわい創出のアイデア提案 ・景観形成に向けた意見交換、アイデア提案
	行政	・植栽整備に向けた支援（苗木の提供や植樹の補助など） ・賑わい創出アイデアの実現に向けた検討（地域と連携） ・島地川ダムの PR 強化に向けた検討 ・ダム周回道路の草刈り等の継続実施
取り組み状況		・植栽整備に関する他都市の事例の収集・整理 ・サクラやモミジなどの植樹場所（木谷公園や和田小学校記念植樹帯、高瀬ダム湖法面、島地川ダム堤体～木谷公園間）や維持管理・更新方法などの検討
今後の課題		・苗木の確保や植樹イベント、スポンサー募集などの検討 ・賑わい創出に向けた意見交換の継続的な実施 ・映像素材の作成検討（事業化、予算化など）

1) 桜の植栽場所の検討

桜の樹が病気等で傷んでいること、ダム周辺では桜の樹を植樹する場所が限られていることが課題です。

島地川ダム周辺での景観形成にあたって、人が滞留する木谷公園や島地川ダム堤体～木谷公園間、島地川ダム管理支所を優先的に対策し、和田小学校記念植樹帯や高瀬ダム湖法面も順次対応します。



2) 桜の植栽場所の現状

上記の候補地における桜の生育状況は以下のとおりです。

①木谷公園	②ダム堤体～ 木谷公園間	③島地川ダム 管理支所周辺	高瀬ダム湖法面	和田小学校 記念植樹帯
	○：桜の植栽場所	○：桜の植栽場所	○：桜の植栽場所	

第5章 ビジョンの推進体制

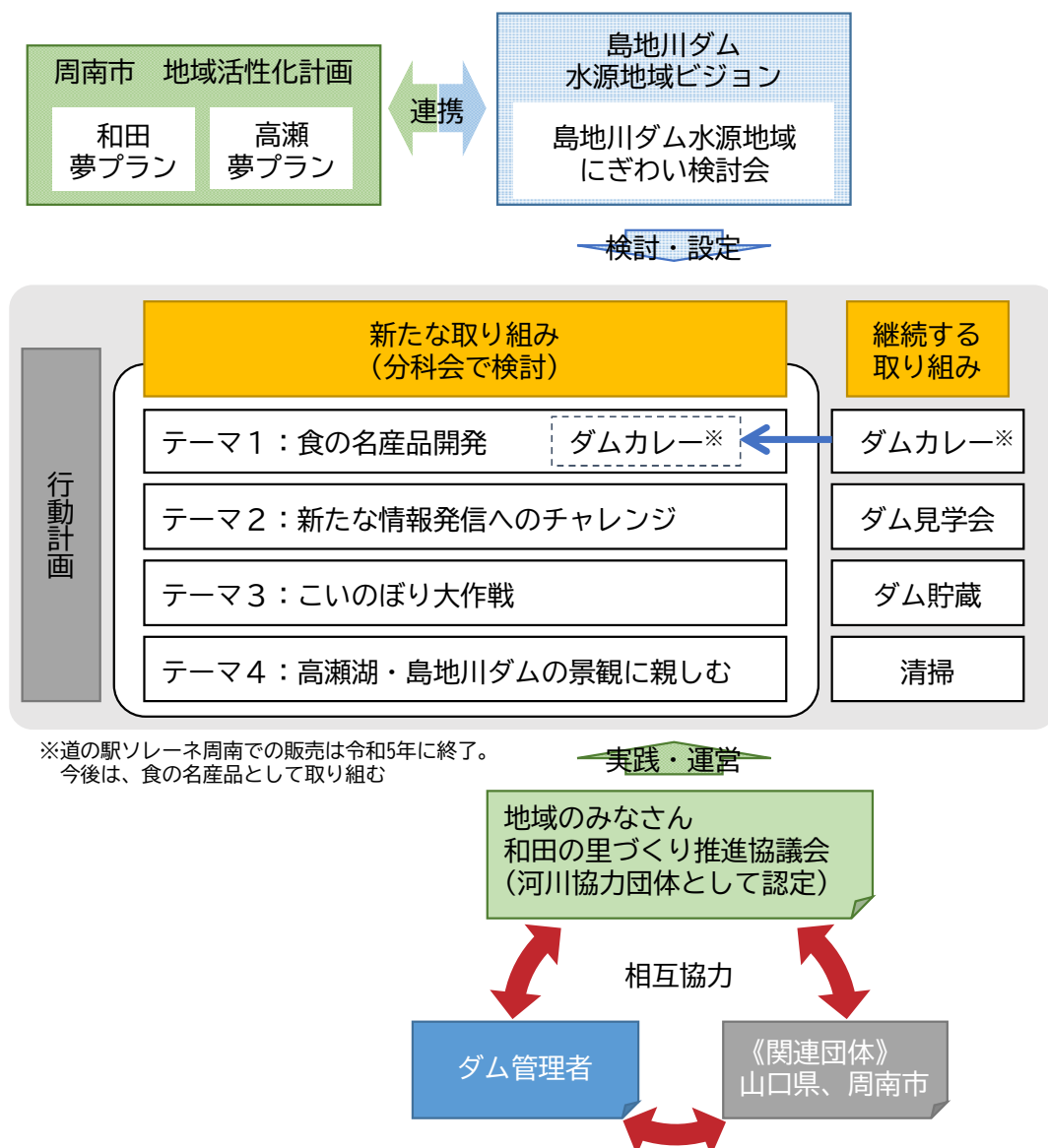
これまでの活動は「高瀬をよくする会」や「和田の里づくり推進協議会」をはじめとする地域の団体や個人が協力しながら進めてきました。しかし、それぞれの活動には活動資金や材料、場所などが必要であり、これらすべてを地域で確保し続けるには限界があります。

そのため、今後の行動計画に基づく活動は、ダム管理者から、地域に依頼する形式を想定し、活動資金や情報提供など今まで以上に協力に対する支援を行います。

また、4つの行動計画が確実に実践されるよう「島地川ダム水源地域にぎわい検討会」の下に「テーマごとの分科会」を設け、地域の皆さんに参加いただきながら進める形式とします。このとき、分科会への参加は、地域の団体ごとではなく、個人それぞれの興味や知識、得意分野を活かせるような枠組みとします。

分科会での活動は、令和6年度より開始し、分科会の上位として、にぎわい検討会も並行して開催し、全体の調整や課題・情報の共有などを行います。

なお、ダムカレーやダム見学会、ダム貯蔵、清掃についても継続して取り組んでいきます。



参考：「島地川ダム水源地域ビジョン【改定版】」（今回（R8.3）計画）の策定経過

令和7年度に改定する「島地川ダム水源地域ビジョン【改定版】」は、コロナ禍が落ち着きを見せた令和5年度から再開された地域住民とダム管理者で構成する「島地川ダム周辺地域にぎわい検討会」において、今までの活動成果の共有と今後の新たな魅力づくりに向けた意見交換（令和5年度に3回実施）を踏まえ、分科会での検討した結果等（令和7年度に3回実施）を計画に反映しています。

【会議開催経緯】

回	開催日	内容
第7回	令和5年5月25日	目的：行動計画の振り返りと新たな取り組みを検討する ①今までの取り組みの状況確認 （ダムカレー、ダム貯蔵、ダム見学、河川協力団体など） ②今までの取り組みにおける良い点や問題点、課題の洗い出し 地域で自慢できる資源や宝、地域が抱える問題点の共有 ③新たな取り組みの提案（②を踏まえたアイデア出し）
第8回	令和5年8月3日	目的：新たな取り組みを具体的に検討する ④行動計画の検討 実施内容、期待される効果、実施時期、役割分担などの確認
第9回	令和5年12月5日	目的：新たな行動計画の確認と今後の動きをイメージ ⑤行動計画の確認 ⑥役割分担、推進体制の確認・検討 ⑦今後の検討会について
第10回	令和7年4月3日	・分科会の位置づけの確認など ・取り組みの具体化に向けた検討
第11回	令和7年11月19日	・分科会での活動状況の報告（情報共有） ・行動計画及び推進体制の確認 ・水源地域次本改定版（案）の確認
第12回	令和8年2月25日	・水源地域ビジョン改定版の確認 ・取り組みの継続に向けた意見交換

【委員名簿（令和5年度）】

項目	氏名	所属
ファシリテーター		※令和5年度以降は有識者を設置せずに実施
会長	高菅克義	高瀬をよくする会会長
地域活動団体 代表	瀧本美智子	高瀬をよくする会
	国本研二	和田の里づくり推進協議会会長
	佐藤貴志	和田の里づくり推進協議会遊ゆう和だ部会長
	平野貴志	和田の里づくり推進協議会副会長
	山根寛	遊ゆう和だ部会副部会長
	財間宏	夢プラン活き生き和だ
	池田淳子	夢プラン潤じゅん和だ
	伊藤禎亮	公共施設再配置部会長
	栗田大輔	和田の里づくり推進協議会事務局長
	石田哲士	高瀬峡保存会
	佐藤和子	和田福祉員会会長
	津本浩子	学校運営協議会会長
	田中清美	和っ彩代表
	渡邊龍夫	市老連和田クラブ会長
地元自治体	大平幸男	周南市地域振興部和田支所長
島地川ダム 管理者	佐藤寛	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所副所長（河川）
	千田裕司	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所河川管理課長
	佐古憲作	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所島地川ダム管理支所長
	永松真依	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所河川管理課技官

【委員名簿（令和7年度）】

項目	氏名	所属
ファシリテーター		※令和5年度以降は有識者を設置せずに実施
会長	高菅克義	
地域活動団体 代表	国本研二	
	佐藤貴志	
	平野貴志	
	渡邊龍夫	
	瀧本美智子	
	田中清美	
	池田淳子	
	伊藤禎亮	
	津本浩子	
	栗田大輔	
	福原哲郎	
	山田良雄	
	石田哲士	
	山根寛	
周南市(行政)	福永顕雄	周南市地域振興部和田支所長
	三原徹	周南市地域振興部和田支所
島地川ダム 管理者	光井伸典	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所副所長
	熊本勝史	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所河川管理課長
	佐古憲作	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所建設専門官
	中村眞	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所島地川ダム管理支所長
	富村恭平	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所河川管理課管理第二係長
	工波桃華	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所河川管理課技官

参考：「島地川ダム水源地域ビジョン【改訂版】」（前回（R3.3）計画）の策定経過

令和２年度に改訂された「島地川ダム水源地域ビジョン【改訂版】」は、地域住民とダム管理者で構成する「島地川ダム周辺地域にぎわい検討会」を設置し、平成２９年度から令和２年度までに計６回の議論を経て策定しました。

策定にあたっては、会議で出された取り組みメニューについて個別に調整しながら試行を行い、効果の把握や計画の改善を行った結果を計画に盛り込んでいます。

【会議開催経緯】

回	開催日	内容
第１回	平成３０年３月１４日	・【現計画】島地川ダム水源地域ビジョンの概要 ・地域の取り組み状況 ・島地川ダム水源地域ビジョンの今後の進め方 ・中国地方の水源地域ビジョンの取り組み事例
第２回	平成３０年１０月６日	・現地視察 ・ダムの利活用について ・イベントの試行について
第３回	平成３１年２月７日	・イベントの試行結果について ・行動計画の見直しについて
第４回	令和元年１１月１８日	・ダムの利活用について ・現地視察（夜間）
第５回	令和２年２月２６日	・行動計画の見直しについて
第６回	令和３年２月１５日	・これまでのふりかえり ・水源地域ビジョン行動計画について ・ビジョン推進体制について

【委員名簿】

項目	氏名	所属
ファシリテーター	柚洞一央	公立鳥取環境大学環境学部准教授
会長	高菅克義	高瀬をよくする会会長
地域活動団体 代表	国本研二	和田の里づくり推進協議会会長
	佐藤貴志	和田の里づくり推進協議会事務局長
	平野貴志	夢プラン活き生き和だ会長
	山根寛	夢プラン遊ゆう和だ会長
	岸本洋子	夢プラン遊ゆう和だ
	財間宏	夢プラン潤じゅん和だ会長
	池田淳子	夢プラン潤じゅん和だ
	伊藤禎亮	プロジェクトW会長
	栗田大輔	TEAM376代表
	石田哲士	高瀬峡保存会副会長
	平野忠彦	学校運営協議会会長
	佐藤和子	和田福祉員会会長
	津本浩子	和田公民館主事
	田中清美	和田公民館主事
地元自治体	有吉富男	周南市地域振興部和田支所支所長
	山田郁雄	周南市地域振興部和田支所主査
島地川ダム 管理者	柳田敏信	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所副所長
	光井伸典	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所河川管理課長
	山本徳幸	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所島地川ダム管理支所長
	井本忠	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所河川管理課専門官
	坂井詞音	国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所河川管理課技官

参考：「島地川ダム水源地域ビジョン」（当初計画）の策定経過

平成 18 年度に策定した当初の「島地川ダム水源地域ビジョン」は、地域住民とダム管理者に加え、学識者、行政で構成する「島地川水源地域ビジョン検討委員会」と、地域住民の代表で戸構成する「島地川ダム水源地域ビジョンワーキング会議」により策定されました。

【会議開催経緯】

会議名	開催日
第 1 回ワーキング グループ会議	平成 17 年 7 月 5 日
第 2 回ワーキング グループ会議	平成 17 年 9 月 1 日
第 3 回ワーキング グループ会議	平成 17 年 10 月 2 日
第 4 回ワーキング グループ会議	平成 17 年 10 月 27 日
第 1 回検討委員会	平成 17 年 11 月 1 日
第 5 回ワーキング グループ会議	平成 17 年 11 月 28 日
第 2 回検討委員会	平成 18 年 2 月 3 日
第 6 回ワーキング グループ会議	平成 18 年 2 月 24 日
第 3 回検討委員会	平成 18 年 3 月 14 日

【島地川水源地域ビジョン検討委員会 委員名簿】

項 目	所 属
学識者	山口大学 工学部社会建設工学科 助教授
行 政	山口県 河川開発課長
	山口県 周南農林事務所長
	山口県 周南土木建築事務所長
	周南市 新南陽総合支所長(ダム周辺環境整備地区管理協議会長、教育委員会新南陽出張所長兼務)
	周南市 鹿野総合支所長(ダム周辺環境整備地区管理協議会副会長、教育委員会鹿野出張所長兼務)
	国土交通省 中国地方整備局 山口河川国道事務所長
地域住民	島地川ダム周辺環境整備地区管理協議会(元 島地川ダム建設対策協議会長)
	和田地区民生主任児童委員(和田公民館)
	和田の里づくり委員会
	周南市 社会福祉協議会 鹿野支部 鹿野高齢者生産活動センター
	自治会和田支部

【島地川ダム水源地域ビジョンワーキング会議 委員名簿】

No	所 属
1	和田の里づくり委員会
2	島地川ダム周辺環境整備地区管理協議会専門指導員
3	高瀬茶業組合
4	高瀬の里保存会
5	自治会和田支部
6	周南森林組合
7	米光地区(上)自治会
8	和田地区青年団
9	和田農産物加工所
10	和田地区民生主任児童委員